麦類雪腐病

１　病徴

北海道や東北などの積雪地帯で発生が多く、積雪下で越冬中の麦が腐敗枯死する（写真)。本県では長期間の積雪がある会津地方で発生が見られるが、近年は降雪が少ないため、本病の発生も少なく推移している。

２　発生生態

原因菌により「褐色小粒菌核病」、「黒色小粒菌核病」、「紅色雪腐病」、「雪腐大粒菌核病」、「褐色雪腐病」などがあるが、本県では主に「褐色小粒菌核病」が発生している。

積雪が長引くほど被害が大きくなり、病原菌は低温と過湿により病原性を示す。

褐色小粒菌核病は土壌伝染性であり、積雪が多く土壌が凍結しない地域に多く発生する。菌核は秋に棒状の桃～白色の子実体（キノコ）を生じる。

３　防除方法

予防的に積雪前に薬剤を散布するが、積雪が始まっても積雪深が浅いうちであれば液剤や粒剤を散布しても効果がある。散布後に降雨があると薬剤の効果が劣るので注意する。また、浸透移行性の剤の場合、低温により効果が不十分になる恐れがある。少量散布だと地表深くに薬剤が浸透せず、土壌中の菌が生存する場合がある。

写真　褐色小粒菌核により枯死葉が発生した麦